

## 研究テーマ

回リハ病棟看護師の栄養管理における意識調査  
～GLIM基準を用いたリハ栄養に関する教育的介入～

## 病院名

医療法人喬成会 花川病院

## 演者

○堀口祐子(看護師) 大類由加理(看護師)  
形川久美子(看護師)

## 概要

### 【緒言】

回復期リハビリテーション病棟(以下:回リハ病棟)では約半数が低栄養状態と報告され、多職種連携し機能回復を図る「リハビリテーション栄養(以下:リハ栄養)」が重要視されている。しかし形川ら(2024)の研究で回リハ病棟看護師の栄養管理の役割認識が不十分と示唆された。2024年度の診療報酬改定でGLIM基準を用いた栄養評価が推奨され、GLIM基準を用いたリハ栄養に関する教育的な取り組みが必要と考えた。

### 【目的】

回リハ病棟看護師にGLIM基準を用いたリハ栄養に関する教育的介入を実施し、栄養管理に対する看護師の意識変化を明らかにする。

### 【方法】

期間:202X年4月～10月、A病院回リハ病棟の看護師に介入前後のアンケートを実施。

調査内容:栄養管理に関する知識・認識・実践の3分野16項目。

分析方法:介入前後の2群間でウィルコクソン符号付順位和検定し有意水準を $p<0.05$ とした。

介入内容:看護師へリハ栄養の研修を実際の症例を用いて実施、栄養管理フローチャート提示、リハ栄養ポケットガイド配布、栄養補助食品試食会の実施、GLIM基準の重度低栄養患者に対し栄養管理を1か月間実施。看護主任へ栄養管理への助言を依頼。

倫理的配慮:データは個人が特定されないよう配慮しA病院研究倫理審査委員会の承認を得た。(花川倫25-023)

### 【結果】

看護師59名 回収率100%、有効回答52名(88.1%)回リハ経験年数6年以上が44.2%、「看護師が積極的に栄養管理に関与すべき」「リハビリスタッフ・管理栄養士と連携すべき」との回答が介入前から95%以上だった。有意差があった項目は知識・実践の2分野7項目。知識分野では「リハ栄養・サルコペニア・フレイルとはなにか」「リハ栄養で看護師に求められる役割」「GLIM基準を用いて栄養評価を行っている」で「よく知っている」「知っている」が有意に上昇した。

実践分野では「多職種と患者のケアについて話し合っている」「退院後の生活を見据えて退院指導を行っている」は「よく行っている」「時々行っている」が有意に上昇した。

### 【考察】

本研究の看護師は回リハ病棟での経験が豊富で多職種連携・関与の必要性を認識していた。実際の症例を用いた説明、試食会を実施し経験を介した学びにより、実践的理解を深めたと考える。看護主任によるフローチャートを用いた実践確認と助言により、研修で得た知識を実践に移し振り返る過程が実践能力の向上へ寄与したと考える。今井ら(2021)は「経験を介した学びが知識定着を促す。また、学習行動が実践能力に結びつくためには、上司による支援が不可欠である」と述べており本研究でも同様の結果が得られた。

### 【結論】

回リハ病棟看護師を対象としたGLIM基準に基づく、リハ栄養教育の介入により主観的評価で知識と実践能力が向上した。